

建設 DX ビジョンのロードマップを策定しました！ ～持続可能な社会に向け“シンカ”の道筋を描きます！～

鉄道・運輸機構（JRTT）は、2023年10月に策定した建設 DX ビジョンを実現するため、今後20年～30年後までの間に歩むべき道筋を描いたロードマップを策定しました。

鉄道・運輸機構（以下、「JRTT」）は、2003年10月1日の設立以来、「明日を担う交通ネットワークづくりに貢献」することを基本理念とし、最新技術の導入に積極的に取り組んで参りました。

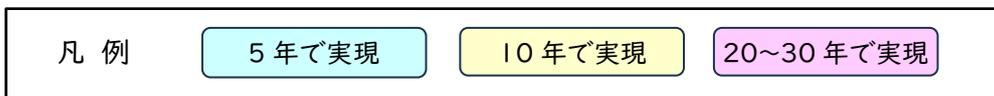
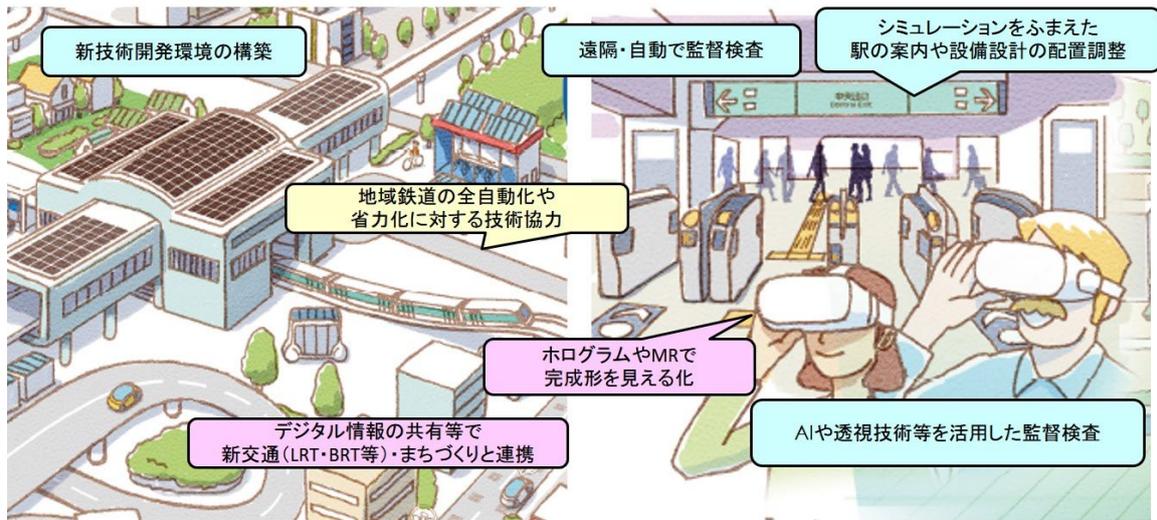
JRTTは、2023年10月に、設立20年を契機として、20年～30年後に達成を目指すべき目標を取りまとめた「建設 DX ビジョン」を策定しましたが、このたび、建設 DX ビジョンを具体化するためのロードマップを策定しました。今後、ロードマップに基づき、多様な事業主体や施策の実現に関係する各種計画とも連携しながらビジョンの具体化を図り、鉄道建設を“シンカ”させてまいります。詳しくは以下のホームページをご確認ください。

【建設 DX ビジョンホームページ】<https://www.jrnt.go.jp/construction/technology/dx.html>

<本件に関するお問合せ先>

建設企画部 技術企画・安全推進課 TEL 045-222-9063

鉄道技術センター 企画部企画課 TEL 03-5403-8716



	R6	R7	R8	R9	5年後	10年後	最終目標
新技術の現場活用	「新技術活用原則義務化」の検討	「新技術活用原則義務化」の制度化検討		「新技術の活用義務化」の導入			現場で技術開発する環境の構築
監督・検査	遠隔臨場の改善 AI等を活用した監督検査等の試行 データの一元管理システムの開発	新技術を蓄積・整理するシステム開発		左記取組の原則化 一元管理システムにデータ蓄積・技術開発等に活用		左記システムで地域鉄道を支援	AIや透視技術等を活用し遠隔・自動で監督検査
BIM/CIM	BIM/CIMデータ蓄積・一元管理システムの検討(BIM/CIMはR5から原則化済み)	BIM/CIMを活用した施工監理・性能評価の技術開発 一元管理システムの構築		北海道新幹線駅工事で案内や設備設計の配置検討や施工監理の実施・マニュアル化 BIM/CIMをARゴーグル等で現実世界に重ねる技術開発		BIM/CIMをホログラム等で投影する技術の試行	ホログラムやARで完成形を見える化

図 ロードマップの例